

環境モニタリングの結果及び平成 29 年度下半期の状況一覧表

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準値超過地点数				平成29年度下期の状況	
					全期間(～H29上期)	平成29年度上期	平成29年度下期	全期間(～H29上期)	平成29年度上期	平成29年度下期	基準値等		単位
2.1生活環境保全上の支障の有無の把握	2.1.1 大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	大気環境基準	2地点	超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	環境基準が定められている4物質、指針値を定めている6物質全てで基準値に適合していた。
		塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	指針値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	
	2.1.2 硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	超過なし	超過なし	0.0002未満～1.105	0.0002未満	0.0002未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
2.1.3(1) 放流水水質調査	総水銀(水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物)、鉛及びその化合物、有機燐化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、ほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油類含有量)、フェノール含有量、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類	放流水基準	1地点	大腸菌群数	超過なし	超過なし	0.1～16300	88～110	8～32	3000以下	個/cm ³	放流水の水質は、全ての項目で放流水基準に適合していた。 過去に放流水基準を超過したことがある大腸菌群数についても、基準に適合していた。	
2.1.3(2) 河川水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量、大腸菌群数	環境基準 上下流の比較	2地点	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	-	-	-	-	-	上流側と下流側で同程度の値を示し、放流水が荒川の水質に及ぼす影響は認められない。	

2.2浸透水等の地下水の拡散又はそのおそれの把握	2.2.1(1) 浸透水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.039(8地点)	0.002未満～0.007	0.002未満～0.002	0.01以下	mg/L	砒素、1,4-ジオキサン、BODが基準を超過している地点があり、変動はみられるものの、上昇傾向は認められない。
					砒素	超過なし	超過なし	0.001未満～0.069(3地点)	0.001未満～0.011(1地点)	0.001未満～0.014(2地点)	0.01以下		
					トリクロロエチレン	超過なし	超過なし	0.002未満～0.019(1地点)	0.002未満	-	0.01以下		
					ベンゼン	超過なし	超過なし	0.001未満～0.018(4地点)	0.001未満～0.007	0.001未満～0.007	0.01以下		
					1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	0.005未満～0.31(5地点)	0.005未満～0.21(1地点)	0.005未満～0.15(1地点)	0.05以下		
	塩化ビニルモノマー	超過なし	超過なし	0.0002未満～0.012(1地点)	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下						
	BOD	BOD	BOD	1.2～160(11地点)	12～58(10地点)	6.5～56(8地点)	20以下						
	ほう素	ほう素	ほう素	0.03～31(9地点)	0.05～15(6地点)	0.02～14(6地点)	1以下	mg/L	ほう素、ふっ素が基準を超過する地点があり、変動はみられるものの、上昇傾向は認められない。				
	ふっ素	ふっ素	ふっ素	0.08未満～5.6(9地点)	0.10～2.3(6地点)	0.11～2.7(6地点)	0.8以下						
	ダイオキシン類	環境基準	ダイオキシン類	超過なし	ダイオキシン類	0.037～110(7地点)	0.10～0.91	0.049～21(1地点)	1以下	pg-TEQ/L	10月に1地点(H16-5)のみで基準を超過した。同族体の組成割合パターンは燃焼由来を示した		
2.2.1(2) 地下水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	地下水等 検査項目基準	10地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.083(6地点)	0.002未満～0.007	0.002未満～0.004	0.01以下	mg/L	基準に適合していた。	
				砒素	超過なし	超過なし	0.001未満～0.068(1地点)	0.001未満～0.01	0.001未満～0.006	0.01以下			
				BOD	BOD	超過なし	0.5未満～23(2地点)	0.5未満～23(2地点)	0.5未満～15	20以下			
	ほう素、ふっ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	基準に適合していた。		
ダイオキシン類	環境基準	ダイオキシン類	超過なし	ダイオキシン類	0.062～2.9(3地点)	0.070～0.96	0.070～2.9(1地点)	1以下	pg-TEQ/L	12月に1地点(H26-2)のみで基準を超過したが、同族体の組成割合のパターンは農業由来を示した。			

調査目的	調査名	調査項目	基準	調査地点数	平成29年度下期の状況
2.3処分場の状況の把握	2.3.1(1),(2) 発生ガス等調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	17地点	硫化水素・メタン:主に横ばい～減少傾向。数値の変動が大きい地点もあるが、これまでの変動の範囲内。 発生ガス量:主に横ばい傾向、1地点で数値が変動するが、これまでの変動の範囲内。 その他:顕著な変化なし
		浸透水(電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH)	-	13地点	硫酸イオン:主に横ばい～低下傾向。H16-5でこれまでで最大の値を示す。H29年度上期で最大値を記録したNo.5bは依然高い値を示すものの、下期では低下傾向となった。 塩化物イオン:主に低下～横ばい傾向。
	2.3.1(3) 下流地下水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH	-	8地点	硫酸イオン、塩化物イオン:横ばい～低下傾向。
	2.3.1(4) 放流水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、pH	-	1地点	顕著な変化なし
	2.3.2(1) 地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帯水域の温度	-	22地点	緩やかな低下傾向。埋立区域外との差も小さくなってきている。
	2.3.2(2) 地下水位調査	地下水位、降雨量	-	22地点	変動の幅に顕著な変化なし
	2.3.3 多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	上期のみ実施(定量下限値未満)
	2.3.3 地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	上期のみ実施(定量下限値未満)
	2.3.4 バイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	2地点	1月測定のアOD値は下流側で300%となり、400%を下回った。その他は400%以上で、上下流の差は認められない。

凡例

- 地下水等検査項目基準を超過したもの
- 環境基準を超過したもの
- 目標値を超過したもの

赤字表記 基準・目標値等を超過する値
(○地点) 基準等を超過した地点数

※ 全期間とは、測定開始から平成 29 年上期までの期間を指す。